

2009年6月24日

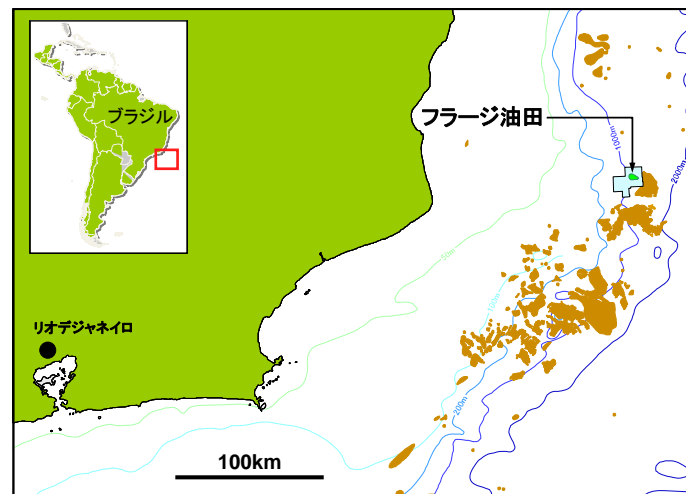
各 位

国際石油開発帝石株式会社
双 日 株 式 会 社

ブラジル連邦共和国 北カンポス沖合フラージ油田からの生産開始について
～ブラジルにおける本邦企業初の油田生産～

国際石油開発帝石株式会社と双日株式会社は、両社および独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）が設立したインペックス北カンポス沖石油株式会社を通じて出資するブラジル現地法人 FJPL 社（Frade Japão Petróleo Limitada）が開発作業を実施しているブラジル連邦共和国北カンポス沖合フラージ油田から、6月20日に原油生産を開始いたしましたので、お知らせいたします。

フラージ油田は、リオデジャネイロ市の北東370kmの海上に位置し、水深1,050～1,300mにある深海油田であり、約2～3億バレルの原油可採埋蔵量が期待されています。本油田は深海部での開発のため、海底仕上げ井とFPSO（浮遊式石油生産・貯油・出荷施設）での開発コンセプトを採用しており、プロジェクト総投資額は、約30億ドルです。2011年には平均日産量9万バレルの生産規模となる見込みです。



(ブラジル カンポス沖 フラージ油田周辺図)

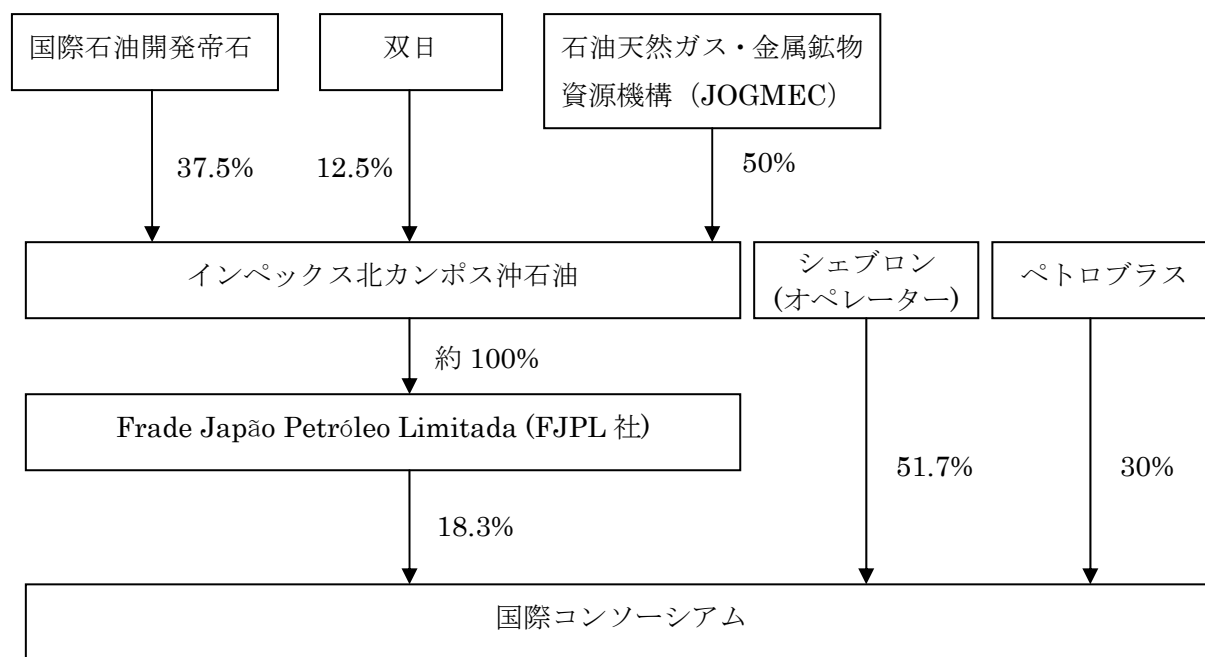
本プロジェクトは、FJPL 社 18.3%、米国シェブロン社 (Chevron、オペレーター) 51.7% およびブラジル国営石油会社ペトロブラス (Petrobras) 30%の参加権益比率で構成する国際コンソーシアムが事業を実施しております。フラージ油田は、1986年に発見されましたが、探鉱・評価段階にあった1999年に、ペトロブラスの実施する入札に参加し、権益を取得したものです。

本プロジェクトはブラジルの石油上流権益の外国資本への開放以来、外国資本によって生産開始に至った 3 番目のプロジェクトです。また、日系企業がブラジルで石油上流権益を保有する石油開発プロジェクトとして初めて原油生産が実現したもので、日本・ブラジル両国政府から大きな期待が寄せられておりました。なお、FJPL 社の権益分原油は、スワップにより、本邦に持ち込む予定です。

国際石油開発帝石と双日は、今後とも、さらなるブラジルでの石油開発プロジェクトの開拓に努めて参ります。

以上

<プロジェクト実施体制図>



<補足説明>

1. インペックス北カンポス沖石油の株主は、石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) 50%、国際石油開発帝石 37.5%、双日 12.5%。
2. FJPL 社は、実質的にインペックス北カンポス沖石油の 100% 子会社。ブラジル法では、コンセッション契約上の権益保有者はブラジル法人とする旨が定められているため、1999 年に権益保有会社として FJPL 社を設立した。

3. 国際石油開発帝石および双日は、当時のインドネシア石油および日商岩井が共同で、鉦区権益を100%保有していたペトロブラスの実施する入札に参加し、当時のテキサコ社（現シェブロン社）およびブラジルのオデブレイト社（Odebrecht）とともに新たに事業に参画、12.75%の権益を取得した。その後2001年に、オデブレイト社の全権益（2.25%）を追加取得、また、2006年に、参入時の権益譲渡契約の条項に基づき、ペトロブラス社の権益が42.5%から30%に減少し、これをシェブロン社と応分で取得した結果、権益比率は現在の約18.3%になった。

【本件に関する問い合わせ】

国際石油開発帝石株式会社	広報・IRユニット	03-5572-0233
双日株式会社	広報部	03-5520-2299